

株主メモ

事業年度 基準日	2月21日から翌年の2月20日まで 2月20日 (そのほか必要がある場合には、あらかじめ公告いたします。)
定時株主総会 単元株式数 株主名簿管理人	5月(ただし20日までに開催) 100株 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

【お問い合わせ先】

イオンモール株式会社
経営企画部IRグループ
〒261-8539 千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1
TEL. 043-212-6733
E-mail amirdept@aeon-mall.net
ホームページ <http://www.aeon-mall.net>

【公 告 の 方 法 】

電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故
その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL <http://www.aeon-mall.net>

ホームページのご紹介

投資家の皆さまへの情報はホームページでもご覧になれます。<http://www.aeon-mall.net>から、「投資家情報」をクリックしてください。



主要連結業績の3年分の推移と決算サマリー、および見通しなどについてご紹介しています。



株主、投資家の皆さまへのコメントを含む、社長からのご挨拶を掲載しています。



トピックスのレビューとともに、各項目の詳細についてもあわせてご確認ください。



もちろん、財務情報や電子公告、株価情報なども最新の情報を掲載し、適切な情報開示に努めています。

表紙写真はイオン高崎ショッピングセンター(2006年10月オープン)



木を植えています

私たちはイオンです



第96期 報告書

2006.2.21～2007.2.20

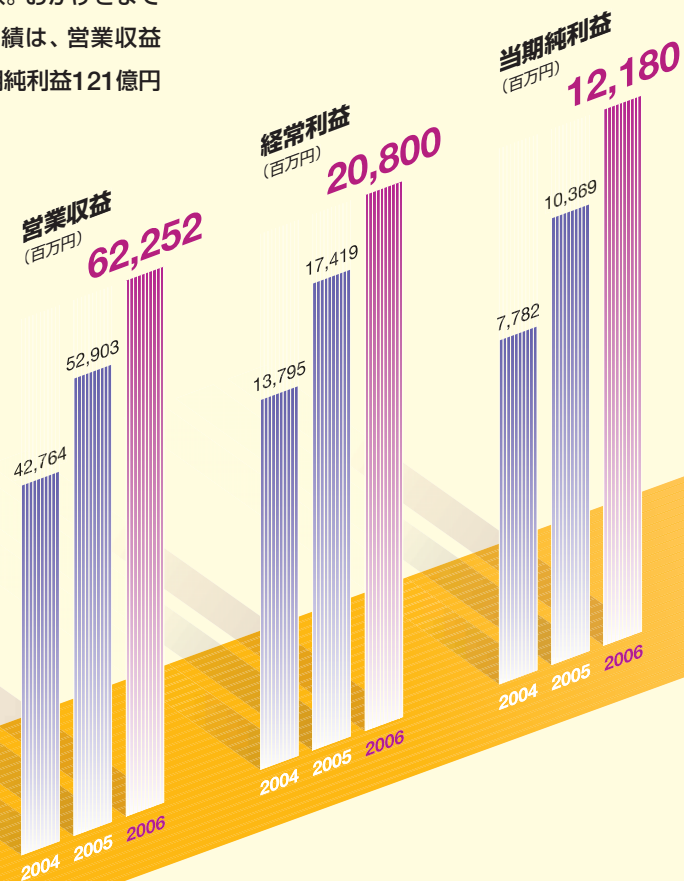


AEON
MALL

イオンモール株式会社

地域に価値あるショッピングセンター（SC）を展開し続け18期連続で増収増益を達成しました。

お客さまの選別消費が進む中、当社では多様なニーズに対応した地域一番の競争力のあるショッピングセンター（SC）づくりを推進しています。当期も、新規に開設した3SCの寄与、既存SCの好調な推移により、前年を上回る収益を確保。おかげさまで18期連続の増収増益を達成することができました。当期の連結業績は、営業収益622億円（前期比17.7%増）、経常利益208億円（同19.4%増）、当期純利益121億円（同17.5%増）となりました。



代表取締役会長 野島英夫

株主・投資家の皆さまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。第96期報告書をお届けするにあたり、日頃のご支援、ご鞭撻に対し心より厚くお礼申し上げます。

本格的SC（ショッピングセンター）時代を迎え、SC事業を取り巻く環境は、外資・異業種の参入に加え、大手小売業によるモール型SC開発の加速化等に見られるように、業態を超えた競争時代になりつつあります。

このような状況の中で、当社は小売・サービスに精通したノウハウ、地域社会と一体となった開発・運営に取り組みながら、地域一番店となるSCづくりを進めています。当期は新たに、イオン千葉ニュータウンSC、イオン高崎SC、イオン神戸北SCを開店いたし



代表取締役社長 村上教行

ました。また、既存SCの活性化にも取り組み、増床・リニューアル、専門店の入れ替え等を積極的に実施した結果、既存SCの専門店売上は前期比104.6%となりました。前期に開設した3SCも好調に推移いたしました。

保険代理店事業も好調に推移した結果、第96期の業績は、収益、利益とも計画を超過達成し、SC事業を開始して以来18期連続の増収増益、8期連続で前期比2桁増の増収増益となりました。配当金につきましては、前期の増配に続き、当初25円を予定しておりましたが、30円に増配させていただきました。また、2007年2月21日付をもって、1株につき2株の割合をもって株式分割を実施させていただきました。

さて、2007年11月には、1万m²を超える大型店の出店できる地域が都市計画法で定められた商業地域等3つの用途地域に制限されます。「国から地方へ、官から民へ」と地方行政の自立が求められ、地方行政の施策実行の自由度が高まる中、出店の判断は各地方自治体に委ねられることになります。都市間競争が激化する中、SCが地域に果たす役割は、一層重要性を増してまいります。

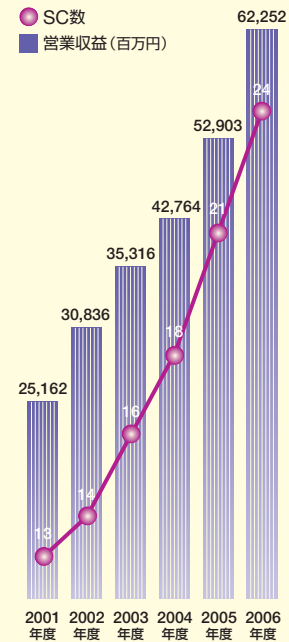
ディベロッパーには、お客さまから支持いただき、地域と共生するSCづくりのノウハウが一段と問われることとなりますが、当社では、このような状況を他社との差別化を図って一層の成長を遂げていく機会と捉えております。8月21日には、当社と（株）ダイヤモンドシティの合併により、日本で最大のSC専門ディベロッパーが誕生いたします。両社の経営資源を統合し、開発・運営のノウハウを融合することで、新たなシナジー効果を創出してまいります。競争力の優位性を生むSCの開発力、営業力などの専門性をさらに高め、国内におけるSC事業の拡大とともに、中国を中心とした海外での事業展開への取り組みも進めてまいります。

今後とも、株主・投資家の皆さまの変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

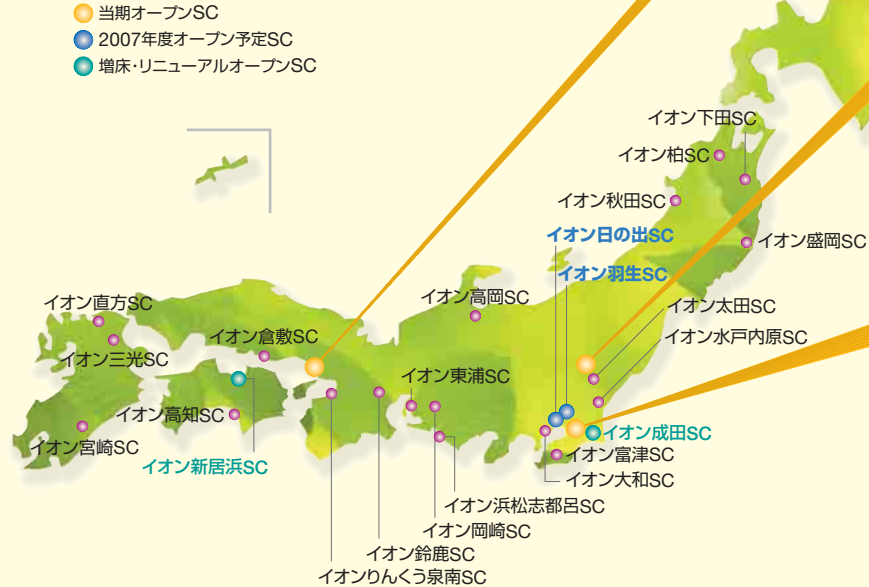
3SCの開店により24SC体制に、 既存SCの活性化も積極的に進めています。

2006年は、4月にイオン千葉ニュータウンSC、10月にイオン高崎SC、11月にイオン神戸北SCをオープンし、当社のSC事業は24SC体制、商業施設面積は142万㎡となりました。また、新規開店に加えて、既存SCの活性化を計画的に促進。増床・リニューアル、専門店の入れ替えなどを推し進め、集客力、競争力強化を図りました。

SC数と営業収益の推移



SC所在地図



新店オープン

兵庫県 最大級 **イオン神戸北ショッピングセンター >> P5**
2006年11月18日オープン

兵庫県神戸市にオープン。大阪、神戸のベッドタウンとして開発が進むエリアの中心に位置する、神戸市初の大型商業施設です。3つの自動車専用道路に囲まれた道路アクセスに恵まれた立地です。



サティが初出店 **イオン高崎ショッピングセンター >> P7**
2006年10月20日オープン

群馬県高崎市にオープン。核店舗となる「高崎サティ」に、170の専門店、シネマコンプレックス等を備えた県内最大級のSCです。隣接する前橋市を含め、商圏人口は約60万人を設定しています。



北総エリア 最大級 **イオン千葉ニュータウンショッピングセンター**
2006年4月21日オープン

千葉県印西市にオープン。現在千葉県と都市再生機構によって開発が進む「千葉ニュータウン」内の中心、千葉ニュータウン中央駅前に立地。2000年に開店した「ジャスコ千葉ニュータウン店」の隣地に商業施設を開発し、敷地面積92,333㎡、商業施設面積75,236㎡という北総エリア最大級のモール型SCとして生まれ変わりました。



既存店リニューアル >> P9

イオン成田SCの大型リニューアル、イオン新居浜SCにおいて専門店の入れ替え等を実施し、既存店の活性化を進めました。

2007年度オープン予定 >> P11

来期は、イオン羽生SC（埼玉県）、イオン日の出SC（東京都）の、2SCのオープンを予定しています。

歴史と伝統ある神戸への初出店、
2核1モール型の魅力あふれるSCが誕生。

2006年11月18日、神戸市と都市再生機構が進める、北神地域の商業・文化・研究施設の整備をテーマとした「神戸リサーチパーク構想」の中核施設として、イオン神戸北SCがオープンしました。中国自動車道神戸三田ICから南東3km、六甲北有料道路長尾ランプより東1kmに位置し、さらにJRおよび神戸電鉄三田駅からは路線バスも運行。恵まれたアクセス環境のもと、広域からの集客が期待できます。



所在地	兵庫県神戸市北区上津台8丁目1番地
規模	敷地面積 114,622m ² 商業施設面積 60,516m ²
駐車台数	4,000台
商圏人口(車で30分圏)	約32万人、約11万世帯
URL	http://aeon-kobekita.com/



「ジャスコ神戸北店」を核店舗に、家電専門店の「ミドリ電化」や、書籍の「喜久屋書店」、遊戯施設の「アーバンスクエア」をはじめ、兵庫県初出店36店を含む、166の専門店が出店。家族や友人など、大切な人たちと楽しい時間を過ごすことができる都市型志向の“時間消費型モール”です。

発展する街の交通にも恵まれた好立地に 県内最大級のショッピングモールがオープン。

2006年10月20日、群馬県高崎市にイオン高崎SCがオープンしました。高崎市は、首都圏と日本海を結ぶ拠点都市として発展する人口32万人の都市であり、当SCは旧群馬町の中央第二土地区画整理事業地内にあります。JR高崎駅から北7km、JR前橋駅から西6km、また高崎渋川線バイパス、関越自動車道前橋ICに隣接するという好立地であり、県内最大級の商業施設として地域の注目を集めています。



所在地	群馬県高崎市棟高町1400番地
規模	敷地面積 122,049m ² 商業施設面積 60,800m ²
駐車台数	3,300台
商圏人口(車で30分圏)	約60万人、約22万世帯
URL	http://aeon-takasaki.com/



当社SC初出店となる(株)マイカルの「高崎サティ」を核店舗として、全長200mのモールには、10スクリーンを備えた「イオンシネマ」、「ペットシティ」、大型書籍「MIRAIYA SHOTEN」など、群馬県初出店59店、地元専門店41店を含む170の店舗が並び、新しくおしゃれで上質なエンターテインメント空間を創造しています。

より楽しく、便利に、魅力的に、 お客さまに選ばれ続けるSCを目指して。

何度でも来店いただいてもその度に新しい発見と驚きがあり、楽しい時間を過ごしていただけるSCであり続けるために、既存店の活性化は重要なポイントです。当社では、大規模な増床・リニューアルを計画的に実施し、お客さまの声を反映させた専門店の入れ替えや施設の改善と合わせて、いつも賑わいのある新鮮さにあふれたSCづくりに努めています。

既存SCでの専門店売上高

年間目標
3%



2006年度
4.6%
達成

イオン成田ショッピングセンター

所在地	千葉県成田市ウイング土屋24
規模	敷地面積 135,771m ² 商業施設面積 71,808m ² (リニューアル前65,276m ²)
駐車台数	4,000台 (リニューアル前3,500台)

オープンから満6年を機に、“成田における新たな「都市繁華街」の創造”をコンセプトに全館リニューアルを実施しました。新規48の専門店を出店、既存店も約70%に当たる72店舗を改装し、さらに魅力的なSCへと生まれ変わりました。

成田



成田



イオン新居浜ショッピングセンター

所在地	愛媛県新居浜市前田町8-8
規模	敷地面積 120,631m ² 商業施設面積 50,215m ²
駐車台数	3,500台

飲食店の入れ替えによるフード・コートの活性化、エンターテインメント機能の強化を実施しました。

新居浜



2007年度も積極的な改装を進め、大規模な活性化を予定しています。

当社は積極的な新規SCの開店と既存SCの収益アップによる業績拡大を進めています。来年度は、イオン高知SC、イオン富津SC、イオン下田SC、イオン新居浜SCの改装に加え、イオン千葉ニュータウンSCの隣地活用や、イオン東浦SC、イオン鈴鹿SCの各店において大規模活性化を予定しています。



イオン高知SCでは、専門店エリアなどで大幅なリニューアルを実施しました。



イオン富津SCでは、新店16店舗のオープンを含む全館リニューアルを行いました。

2007年度は2店舗のオープンを予定しています。

2006年度よりスタートした中期3カ年計画において、3年間で計10SC以上の開店を目標としています。目標達成を目指して2007年度は2SCの開店を予定しており、段階的に準備を進めています。



(仮称)
イオン日の出SC 2007年秋オープン予定

所在地	東京都西多摩郡日の出町大字平井字三吉野桜木地区
規模	敷地面積 134,253m ² 商業施設面積 76,240m ²
駐車台数	3,650台
商圏人口(車で30分圏)	約40万人、約16万世帯

東京都に出店する初のSC。圏央道日の出ICに位置し、西多摩地区一体約40万人をターゲットにしています。

(仮称)
イオン羽生SC 2007年秋オープン予定

所在地	埼玉県羽生市川崎二丁目
規模	敷地面積 227,100m ² 商業施設面積 89,097m ²
駐車台数	4,800台
商圏人口(車で30分圏)	約63万人、約20万世帯

埼玉県北部の国道122号線と国道125号線が交わる交通の要衝に位置し、羽生市の他、近郊からの集客を見込んでいます。



個人情報の保護をお約束する
プライバシーマークを取得しました。

2006年12月15日、個人情報を適切に取り扱う体制が整備されていることの証として、プライバシーマーク認定を取得しました。これを機にさらに個人情報の管理への意識を高め、お客さまの信頼にお応えしていきます。



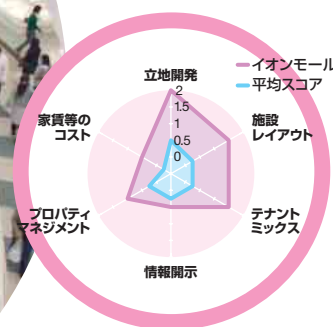
環境にやさしいショッピングセンター
「エコモール」を開発しています。

当社では、安らぎのある暮らしを支える環境づくりを意識し、エコモールの開発に取り組んでいます。ゼロ・エミッションSCを目指してのリサイクル推進、省資源・省エネ設備の採用を実施し、地域の環境保全に貢献しています。



小島ファッションマーケティングの
ディベロッパー評価で第1位に選ばれました。

小島ファッションマーケティングのSPAC研究会による専門店からのアンケートでは、主要21社中1位に選ばれました。評価項目のすべてで平均点を上回り、当社の開発力、運営力が専門店各社から高い評価をいただきました。



SC専門ディベロッパーであるダイヤモンドシティとの合併が決定しました。

当社と(株)ダイヤモンドシティは、2007年8月21日をもって合併することを決議しました。両社の経営資源を統合し、開発・運営のノウハウを融合することでシナジー効果を発揮し、海外も含めたさらなる成長性と競争力確保につなげていきます。今後も、イオンの一員としてグループ各企業とも連携し、地域社会との共生を図り、地域に根ざしたSCづくりを進めてまいります。

※写真は3月20日合併発表記者会見にて。



左から：川戸義晴(当社前代表取締役社長、5月24日(株)ダイエー会長就任予定)、岡田元也(イオン(株)取締役兼代表執行役社長)、鯛洋三((株)ダイヤモンドシティ代表取締役社長。合併後当社取締役副会長に就任予定)、村上教行(当社代表取締役社長)。

『プレジデントファミリー(2007年1月号)』で
お気に入りのお出かけスポットに選ばれました。

プレジデント社発行の雑誌『プレジデントファミリー』2007年1月号の掲載記事の中で、家族で休日に出かけ「お出かけスポット」を選ぶアンケートにおいて、イオンのSCが20の都道府県で1位に選ばれています。



北海道	モエレ沼公園	石川	兼六園	岡山	イオンショッピングセンター
青森	ジャスコ	福井	エンゼルランド	広島	ソレイユ
岩手	イオン	山梨	ドラゴンパーク	山口	常磐公園
宮城	みちのく湖畔公園	長野	軽井沢	徳島	ジャスコ
秋田	イオンショッピングセンター	岐阜	木曽三川公園	香川	讃岐まんのう公園
山形	西蔵王公園	静岡	浜名湖	愛媛	こどもの城
福島	スパリゾート	愛知	イオン	高知	イオン
茨城	ジャスコ	三重	ジャスコ	福岡	ダイヤモンドシティ
栃木	わんぱく公園	滋賀	琵琶湖	佐賀	ジャスコ
群馬	イオン	京都	ジャスコ	長崎	ハウステンボス
埼玉	ジャスコ	大阪	USJ	熊本	阿蘇
千葉	ディズニーリゾート	兵庫	六甲山	大分	わさだタウン
東京	昭和記念公園	奈良	奈良公園	宮崎	イオン
神奈川	みなとみらい	和歌山	イオン	鹿児島	ふれあいスポーツランド
新潟	ジャスコ	鳥取	大山	沖縄	ジャスコ
富山	イオンショッピングセンター	島根	宍道湖		

地域と共生するSCを目指して、 SC内や駐車場スペースを広く開放しています。

SCを地域社会のコミュニティセンターと位置づけるイオンモールでは、SCの施設を地域に密着したイベントや行事のために提供し、伝統の継承と新しい文化づくりを支援しています。地域にふれあいの輪が広がり、豊かな文化が育ってゆくことを願い、地域の皆さまとの絆を深める活動に力を注いでいます。

(イオン千葉ニュータウンSC よさこい祭り)



成人式 (イオン浜松志都呂SC)

SCの公共的機能を追求した取り組みの一つとして、地元の成人式式典や謝恩会開催のために、多目的ホール「イオンホール」を提供しています。



カルチャーフェスティバル (イオン岡崎SC)

地域をあげてのお祭り、市民コンサート、あるいは物産展の会場として、地域をいきいきと盛り上げるさまざまなイベントの開催を積極的にサポートしています。



伝統芸能 (イオン鈴鹿SC 獅子舞)

何百年にもわたって伝承されている郷土芸能や伝統工芸などの発表の場として、広くご活用いただき、次世代に残したい地域文化の継承に貢献しています。



(イオン高知SC よさこい祭り)



(イオン新居浜SC 太鼓祭り)

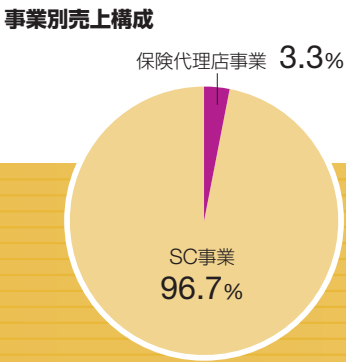


(イオン柏SC 馬市まつり)

地域一番の競争力のあるSCづくりを
推進し、増収増益を達成しました。

決算サマリー

- 当期においても2桁の増収増益により、ディベロッパー事業開始以来、18期連続の増収増益を達成
- 新たに3SCを開店し24SC体制へ、さらに既存3SCをリニューアルオープンするなど活性化にも注力
- マーケットに適應したモール専門店の導入・入れ替えといったリプレイスのスピードアップも図る



全体概況

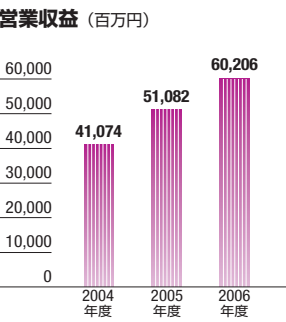
景気は緩やかな拡大を持続し、個人消費にも底堅さが見えてきましたが、お客さまの選別消費が進んでおり、小売業界は業態を超えた競争が一段と激化しています。このような状況に対して、当社では小売業に精通したSC専業ディベロッパーならではのノウハウを最大限に発揮し、お客さまのニーズに対応した、地域で一番の競争力を持つSCづくりを推進しています。

当期は新たに3SCを開店し、既存SCでは、増床・リニューアル、専門店の入れ替え等、活性化に注力し、サービス力の向上による競争力強化に取り組みました。また、もう一方の事業である保険代理店事業では、個人分野、法人分野とも、積極的な営業活動に努め、中でも個人分野の強化施策として、SCでの保険販売カウンター数の拡大を進め、順調に契約数を伸ばしました。

これらの結果、当期の連結業績は、営業収益622億円（前期比17.7%増）、経常利益208億円（同19.4%増）、当期純利益121億円（同17.5%増）となり、18期連続の増収増益を達成しました。

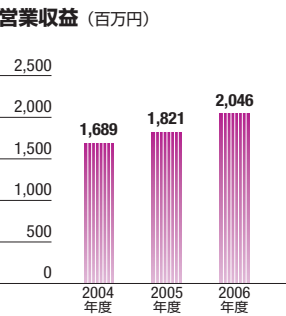
SC事業

当期は2006年4月にイオン千葉ニュータウンSC（千葉県）、10月にイオン高崎SC（群馬県）、11月にイオン神戸北SC（兵庫県）を開店し、24SC体制、商業施設面積は142万㎡となりました。既存SCにおいては、4月にイオン盛岡SC（岩手県）の増床、7月にイオン新居浜SC（愛媛県）においてアミューズメント施設の移動やフード・コート
の活性化等、エンターテインメント機能の強化を実施。続いて、9月にはイオン成田SC（千葉県）をリニューアルオープンしました。既存店の活性化により、既存18SCの専門店売上は前期比4.6%増となり、売上高に連動する歩合家賃の比重が大きい専門店からの家賃収入が増加しました。2005年に開店したイオン直方SC（福岡県）、イオン宮崎SC（宮崎県）、イオン水戸内原SC（茨城県）も順調に推移しており、SC事業の営業収益は602億円（前期比17.9%増）と増収になりました。



保険代理店事業

収益の基盤の確立を目指し、お客さまの多様化するニーズにいち早くお応えするべく、積極的な提案型の営業活動とサービス向上に取り組みました。特に、個人分野の強化に注力し、がん・医療保険の拡販が順調に推移しました。また、SCにご来店いただくお客さまに保険商品を販売するための、SC内保険販売カウンターも着実に拠点を拡大し、前期の22カ所から31カ所となりました。法人分野においても、イオングループ各社の事業拡大に対応した提案型営業により、契約数を伸ばしました。この結果、保険代理店事業の営業収益は、20億円（前期比12.4%増）となりました。

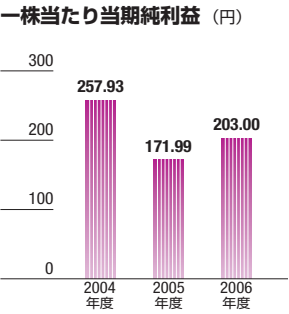
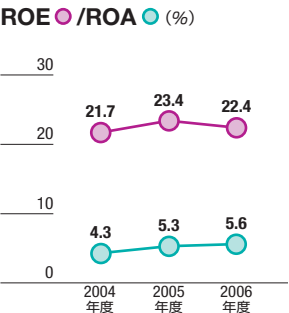
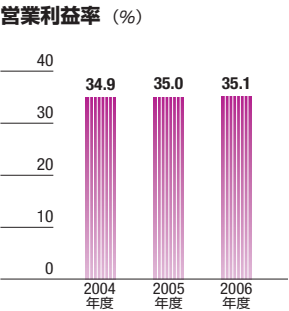


来期の見通し

営業収益 965億円（前期比 55.0%増）
経常利益 300億円（前期比 44.2%増）
当期純利益 175億円（前期比 43.7%増）

当社は2007年8月21日付けで（株）ダイヤモンドシティとの合併を予定しております。来期の見通しは当社の通期の見通しに（株）ダイヤモンドシティの下期見通しを合算したものです。

連結損益計算書（単位：百万円）		
	前 期 自2005年2月21日 至2006年2月20日	当 期 自2006年2月21日 至2007年2月20日
営業収益	52,903	62,252
不動産賃貸収益	51,082	60,206
保険代理店手数料	1,821	2,046
営業原価	29,297	35,052
営業総利益	23,605	27,200
販売費及び一般管理費	5,095	5,321
営業利益	18,510	21,879
営業外収益	410	447
受取利息	79	102
受取配当金	27	34
受取退店違約金	178	95
受取保険金	—	76
工事負担金受入	67	68
その他	58	70
営業外費用	1,502	1,526
経常利益	17,419	20,800
特別利益	167	125
固定資産売却益	123	62
投資有価証券売却益	—	60
貸倒引当金戻入益	24	—
その他	19	3
特別損失	142	289
固定資産除却及び売却損	104	283
減損損失	26	—
その他	11	5
税金等調整前当期純利益	17,443	20,636
法人税、住民税及び事業税	7,073	8,695
法人税等調整額	△57	△307
少数株主利益	58	69
当期純利益	10,369	12,180

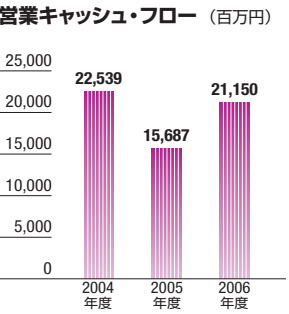
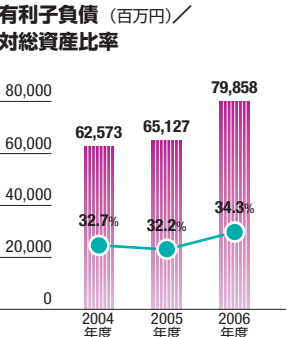
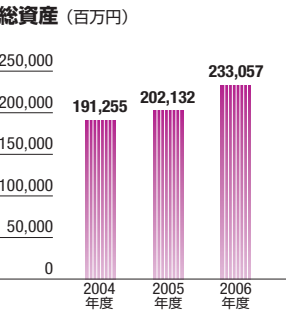


※2005年4月11日に1株を2株に株式分割を行っています。

連結貸借対照表（単位：百万円）		
	前 期 2006年2月20日現在	当 期 2007年2月20日現在
資産の部		
流動資産	16,672	11,132
固定資産	185,460	221,925
有形固定資産	164,303	199,197
無形固定資産	894	864
投資その他の資産	20,262	21,862
資産合計	202,132	233,057
負債の部		
流動負債	44,715	46,792
固定負債	108,045	126,230
負債合計	152,761	173,023
純資産の部		
株主資本	48,100	58,730
資本金	7,796	7,796
資本剰余金	7,165	7,165
利益剰余金	33,153	43,784
自己株式	△14	△15
評価・換算差額等	1,002	972
少数株主持分	268	331
※ 純資産合計	49,371	60,034
負債純資産合計	202,132	233,057

※会計基準の改正に伴い、従来の「資本の部」の表示方法が変更されております。比較の便に資するため、前期の表示方法を当期の基準に組み替えて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書（単位：百万円）		
	前 期 自2005年2月21日 至2006年2月20日	当 期 自2006年2月21日 至2007年2月20日
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,687	21,150
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,281	△40,664
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,647	13,224
現金及び現金同等物の増減額	5,052	△6,289
現金及び現金同等物の期首残高	4,472	9,525
現金及び現金同等物の期末残高	9,525	3,235



損益計算書（単位：百万円）		
	前 期 自2005年2月21日 至2006年2月20日	当 期 自2006年2月21日 至2007年2月20日
営業収益	53,200	62,551
不動産賃貸収益	51,378	60,505
保険代理店手数料	1,821	2,046
営業原価	30,029	35,810
営業総利益	23,170	26,741
販売費及び一般管理費	5,077	5,301
営業利益	18,092	21,440
営業外収益	427	453
受取利息	83	94
受取配当金	41	48
受取退店違約金	178	95
受取保険金	—	76
工事負担金受入	67	68
その他	57	69
営業外費用	1,450	1,479
経常利益	17,069	20,414
特別利益	170	125
固定資産売却益	123	62
投資有価証券売却益	—	60
貸倒引当金戻入益	27	—
その他	19	3
特別損失	121	288
固定資産除却及び売却損	83	283
減損損失	26	—
その他	11	5
税引前当期純利益	17,118	20,251
法人税、住民税及び事業税	6,951	8,536
法人税等調整額	△69	△302
当期純利益	10,235	12,016
前期繰越利益	2,681	—
当期末処分利益	12,916	—

貸借対照表（単位：百万円）		
	前 期 2006年2月20日現在	当 期 2007年2月20日現在
資産の部		
流動資産	16,151	10,647
固定資産	183,504	220,017
有形固定資産	159,760	194,887
無形固定資産	884	856
投資その他の資産	22,859	24,273
資産合計	199,655	230,664
負債の部		
流動負債	44,352	46,442
固定負債	106,623	125,106
負債合計	150,976	171,549
純資産の部		
株主資本	47,676	58,143
資本金	7,796	7,796
資本剰余金	7,165	7,165
利益剰余金	32,729	43,197
自己株式	△14	△15
評価・換算差額等	1,002	972
※ 純資産合計	48,678	59,115
負債純資産合計	199,655	230,664

※会計基準の改正に伴い、従来の「資本の部」の表示方法が変更されております。比較の便に資するため、前期の表示方法を当期の基準に組み替えて表示しております。

連結株主資本等変動計算書（単位：百万円）									
自 2006年2月21日 至 2007年2月20日	株主資本					評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主 資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
2006年2月20日 残高	7,796	7,165	33,153	△14	48,100	1,002	1,002	268	49,371
連結会計年度中の変動額									
2006年5月定時株主総会決議に 基づく利益処分項目			△1,548		△1,548				△1,548
当期純利益			12,180		12,180				12,180
自己株式の取得				△0	△0				△0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額（純額）						△30	△30	63	32
連結会計年度中の変動額合計	—	—	10,631	△0	10,630	△30	△30	63	10,663
2007年2月20日 残高	7,796	7,165	43,784	△15	58,730	972	972	331	60,034

単体株主資本等変動計算書（単位：百万円）											
自 2006年2月21日 至 2007年2月20日	株主資本								評価・換算差額等		純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
		資本 準備金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益 剰余金	利益剰余金 合計					
2006年2月20日 残高	7,796	7,165	7,165	530	32,199	32,729	△14	47,676	1,002	1,002	48,678
当事業年度中の変動額											
2006年5月定時株主総会決議に 基づく利益処分項目					△1,548	△1,548		△1,548			△1,548
当期純利益					12,016	12,016		12,016			12,016
自己株式の取得							△0	△0			△0
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）									△30	△30	△30
当事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	10,467	10,467	△0	10,467	△30	△30	10,436
2007年2月20日 残高	7,796	7,165	7,165	530	42,667	43,197	△15	58,143	972	972	59,115

■ 会社概要（2007年2月20日現在）

社 名	イオンモール株式会社
英 文 社 名	AEON Mall Co., Ltd.
設 立	1911（明治44）年11月
資 本 金	77億96百万円
本社所在地	千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1
従 業 員 数	582名

■ 取締役・監査役（2007年5月17日現在）

代表取締役会長	野島英夫	
代表取締役社長	村上教行	
専務取締役	木村洋一	財経本部長
常務取締役	岡崎隆夫	管理本部長
常務取締役	西尾徹二	SC営業本部長
常務取締役	平林秀博	SC開発本部長
取締役相談役	岡田元也	イオン(株)取締役兼代表執行役社長
取締役	三浦政次	経営企画部長
取締役	小西幸夫	テナント開発部長
取締役	瀧澤 一郎	保険事業本部長
取締役	大西秀明	建設部長
取締役	寺澤洋一	管理本部副本部長
取締役	林 直樹	イオン(株)専務執行役、 (株)ダイヤモンドシティ代表取締役会長
取締役	鯛 洋三	(株)ダイヤモンドシティ代表取締役社長
取締役	山中千敏	(株)ダイヤモンドシティ専務取締役開発本部長
取締役	坂本 誠	(株)ダイヤモンドシティ常務取締役 コーポレート本部兼長コンプライアンス委員長
取締役	藤塚賢三	(株)ダイヤモンドシティ常務取締役 PM事業本部長
取締役	池田吉成	(株)ダイヤモンドシティ常務取締役 開発本部副本部長
取締役	坂部正博	(株)ダイヤモンドシティ取締役 ダイヤモンドシティ・ミューSCマネージャー
取締役	村井正人	(株)ダイヤモンドシティ取締役第二営業本部長
常勤監査役	横井 賢	
監査役	林 有恒	(株)ダイヤモンドシティ常勤監査役
監査役	石垣富士夫	イオン総合金融準備(株)常勤監査役
監査役	西松正人	イオン(株)グループ財経担当

■ 株式の状況（2007年2月20日現在）

発行可能株式総数	160,000,000株	(注)1
発行済株式の総数	60,011,232株	(注)2
株主数	2,965名	

(注) 1. 2007年2月21日付けで普通株式1株を2株に分割したことに伴い、発行可能株式総数は160,000,000株から320,000,000株に増加いたしました。

2. 2007年2月21日付けで普通株式1株を2株に分割したことに伴い、発行済株式の総数は60,011,232株から120,022,464株となりました。

大株主（上位10名）	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	出資比率 (%)
イオン株式会社	32,152	53.58
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	3,090	5.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,439	2.39
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン	1,109	1.84
農林中央金庫	962	1.60
インベスターズ バンク	864	1.44
東京海上日動火災保険株式会社	839	1.39
第一生命保険相互会社	759	1.26
みずほ信託銀行株式会社	719	1.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井アセット信託銀行再信託分・CMTB エクイティインベストメンツ株式会社)	719	1.19

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

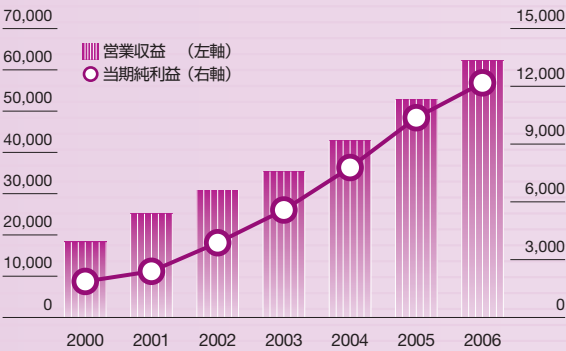
2. 出資比率は、自己株式(8,792株)を控除して計算し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

全国26都道府県で43SCを展開。
8月21日新生イオンモールがスタートします。

当社は、(株)ダイヤモンドシティとの合併により、2007年8月21日をもって新生イオンモールとしてスタートし、SC数は、全国26都道府県で43となります。小売事業を軸に幅広く事業展開を行うイオンの一員として、その相乗効果を最大限に発揮できるSCの開発・運営に注力し、さらなる成長を目指していきます。



営業収益・当期純利益（イオンモール）（百万円）



営業収益・当期純利益（ダイヤモンドシティ）（百万円）

